

自閉症スペクトラムの方々の〈感情／相貌認知障害〉や〈感情認知とコミュニケーション表出の困難性〉については、過去の連載で触れていますので、詳細については、それぞれ連載7と連載8をもう一度確認して頂くことをお願いして、今回は、その先にある「では、そのような状況におかれた方々がどのようにしてその感情を、また、その置かれた状況を伝えようとするのか？」について考えていきたいと思えます。

A男さんは、何十枚という紙に同じ言葉を書き連ねて職員に渡します。そこには「僕は、〇〇さんの頭を強く叩きました。」とボールペンの強い筆圧で、紙一杯に書き込んであります。何枚めくっても同じ言葉です。そんな時に、そのままその言葉を文字通り理解すれば、「いつ、そんなことをしたんですか！そんなことはしてはいけません！」となる話なのですが、もちろん事はそう簡単ではありません。まず第一に、ここ数年の間は、〇〇さんとは全くお付き合いのないA男さんなので、〇〇さんの頭を叩けるはずがないからです。しかし、10年という単位で時間を遡れば、確かにA男さんは〇〇さんの頭を強く叩いて、怪我をさせたことがあります。

- ①じゃあ、急に思い出したの？フラッシュバックってやつ？
- ②いやいや、注意獲得行動で嘘をついているんじゃないの？ただのお騒がせ？
- ③時間の概念に乏しいから、昨日の話も5年前の話も、10年前の話もごっちゃ混ぜじゃないの？…等

いろいろな行動理解の方法が浮かぶのですが、いずれも何十枚もの紙にこれを書き連ねてきた彼の追い込まれた気持ちを説明できるような迫力がありません。

彼の何十枚もの紙束は、「何とかして伝えたい」「誰か助けてくれ！」といった鬼気迫るものを伝えてきます。

そこで思いついたのが、感情を上手に伝えられないA男さんが、なんとか今感

じている感情を伝えようとして、編み出した方法が、「自分の人生経験の中で、今感じている感情と同じような感情を感じたことがある事柄を一生懸命引っ張り出してきて、その事柄を伝えることで、今感じている感情を伝えようとしているのではないか？」ということでした。

遠い昔、〇〇さんの頭を強く叩いたとき、それはおそらく、「怒っていた」とか「イライラしていた」という感情が沸き起こっていた時と思われる。

A男さんには、その湧き上がってきている感情が、「怒っている」のか「イライラしている」のかは、自分でも、とても解りづらいのでしょうか。しかし、遠い昔の感情と今の感情が、どうやら同じであることはわかるのでしょうか。「僕は、今怒っている」ということなのです。

さっそく、その行動理解の方法に沿って情報収集をすると、答えはすぐに見つかりました。前回の帰省時に、A男さんは、服を何枚か破って捨てていて、それを強く父親に叱責されていることがわかりました。そして、その服破りの原因は、約束したドライブが果たされていないことにあるようでした。服を破いた理由を上手に説明できないまま叱責されたA男さんは、そのどこへも持っていけない怒りを、手紙という形で、何枚も何枚も、同じような気持ちを感じたであろう過去の出来事を書き連ねることで、「助けてくれ！」のサインとしたのでしょうか。特に障害の重い自閉症スペクトラムの方から、感情を表現する形容詞（悲しい、辛い、寂しい等）の発語を聞くことがほとんどないことが、自分の感情をどう扱っているのかわからない彼らの特性を浮かび上がらせますが、それは「感じていない」「感じたことを伝えたいと思っていない」と同義ではないのです。事柄を想起するのが得意な彼らは、その事柄と感情とをくっつけることで、その感情を想起する手段、伝達の手段としているのです。つまり、それが伝わるか伝わらないかは、受け取る側の課題ということになります。